

【 蜂の巣で台風を占う 】

最近の夏は、7月が猛暑の年が多い。

1994年以降、東京の7月の気温は平年に比べて1.5も高く、8月はプラス0.6程度である。今年もこのような気温の傾向が持続しそうだ。

待望の夏型の気圧配置になると、太平洋高気圧が西に張り出して日本の南海上を覆い、南西から湿った海風が吹いて蒸し暑く、最高気温が30を超える真夏日となる。

内陸部や大都市では、35以上になることも珍しくなくなってきた。

天気予報で使われる気温は、観測地点にある風通しのよい白ペンキの百葉箱内で観測された値である。

一方、農作物が育つ畑やハウス内の気温は、設置環境により、40以上の高温にもなる。

夏が暑くなる原因として、CO₂（二酸化炭素）の増加による地球温暖化や都市周辺のヒートアイランド現象、日本近海の海水温度の上昇などが挙げられる。

気になる台風は海水の温度が、26以上の海域で発生し、海面からエネルギーを吸収して発達する。今年は西太平洋から日本近海にかけて海水温度も高く、台風の発生数は、7月までの平年値である7.7個を上回わり、6号と7号が上陸した。

おなじみの天気のことわざに「蜂が草陰に巣をつくると台風になる」がある。

1990年には、6個の台風が日本に上陸し（平年は2.6個）、そのうちの5個が中部地方に影響を与え、この年の夏は名古屋市内の農家の軒下などに営巣する蜂が急増したという。

今後は、蜂の巣がどこに多いかを調べることで、台風の上陸する地方の予知が出来るかも知れない。

（ 気象情報システム株式会社 高津 敏 ）